



JFP リファレンスマニュアル **1M**: システム管理コマンド



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 816-3996-11
2006年11月

Sun Microsystems, Inc. (以下米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に含まれる技術に関連する知的財産権を所有します。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許、あるいは米国およびその他の国において申請中の特許を含んでいることがあります。ただし、それらに限定されるものではありません。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者によって開発された素材を含んでいることがあります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Solaris のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、JumpStart、Solaris Web Start、Power Management、Sun ONE Application Server、Solaris Flash、Solaris Live Upgrade、Java および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn8 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright(C) OMRON Co., Ltd. 1995-2006. All Rights Reserved. Copyright(C) OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2006 All Rights Reserved.

「ATOK for Solaris」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK for Solaris」にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK」および「推測変換」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK for Solaris」に添付するフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

「ATOK for Solaris」に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行なっています)。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書で言及されている製品や含まれている情報は、米国輸出規制法で規制されるものであり、その他の国の輸出入に関する法律の対象となる場合があります。核、ミサイル、化学あるいは生物兵器、原子力の海洋輸送手段への使用は、直接および間接を問わず厳しく禁止されています。米国が禁輸の対象としている国や、限定はされませんが、取引禁止顧客や特別指定国民のリストを含む米国輸出排除リストで指定されているものの輸出および再輸出は厳しく禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

目次

はじめに	5
序章	9
Intro_jfp(1M)	10
システム管理コマンド	13
atok12mngtool(1m)	14
cssd(1M)	15
dpkeyserv(1M)	16
dpkeystat(1M)	17
jserver(1M)	18
wnnaccess(1M)	20
wnnnds(1M)	22
wnnkill(1M)	23
wnnoffline(1M)	24
wnnsysenv_server(1M)	25
wnnudmerge(1M)	26

はじめに

概要

SunOS リファレンスマニュアルは、初めて SunOS を使用するユーザーやすでにある程度の知識を持っているユーザーのどちらでも対応できるように解説されています。このマニュアルを構成するマニュアルページは一般に参照マニュアルとして作られており、チュートリアルな要素は含んでいません。それぞれのコマンドを実行すると、どのような結果が得られるかについて、詳しく説明されています。なお、各マニュアルページの内容はオンラインでも参照することができます。

このマニュアルは、マニュアルページの内容によっていくつかのセクションに分かれています。各セクションについて以下に簡単に説明します。

- セクション 1 は、オペレーティングシステムで使えるコマンドを説明します。
- セクション 1M は、システム保守や管理用として主に使われるコマンドを説明します。
- セクション 2 は、すべてのシステムコールについて説明します。ほとんどのシステムコールに 1 つまたは複数のエラーがあります。エラーの場合、通常ありえない戻り値が返されます。
- セクション 3 は、さまざまなライブラリ中の関数について説明します。ただし、UNIX システムプリミティブを直接呼び出す関数については、セクション 2 で説明しています。
- セクション 4 は、各種ファイルの形式について説明します。また、ファイル形式を宣言する C 構造体を適用できる場合には随時説明しています。
- セクション 5 は、文字セットテーブルなど他のセクションには該当しないものについて説明します。
- セクション 7 は、特殊なハードウェア周辺装置またはデバイスドライバに関するさまざまな特殊ファイルについて説明します。STREAMS ソフトウェアドライバ、モジュール、またはシステムコールの STREAMS 汎用セットについても説明します。
- セクション 9 は、カーネル環境でデバイスドライバを記述するのに必要な参照情報を提供します。ここでは、デバイスドライバインタフェース (DDI) とドライバ/カーネルインタフェース (DKI) という 2 つのデバイスドライバインタフェース仕様について説明します。

- セクション9Fは、デバイスドライバが使用できるカーネル関数について説明します。

以下に、このマニュアルの項目を表記されている順に説明します。ほとんどのマニュアルページが下記の項目からなる共通の書式で書かれていますが、必要でない項目については省略されています。たとえば、記述すべきバグがコマンドにない場合などは、「使用上の留意点」という項目はありません。各マニュアルページの詳細は各セクションの `intro` を、マニュアルページの一般的な情報については `man(1)` を参照してください。

名前 コマンドや関数の名称と概略が示されています。

形式 コマンドや関数の構文が示されています。標準パスにコマンドやファイルが存在しない場合は、フルパス名が示されます。字体は、コマンド、オプションなどの定数にはボールド体 (**bold**) を、引数、パラメータ、置換文字などの変数にはイタリック体 (*Italic*) または <日本語訳> を使用しています。オプションと引数の順番は、アルファベット順です。特別な指定が必要な場合を除いて、1文字の引数、引数のついたオプションの順に書かれています。

以下の文字がそれぞれの項目で使われています。

- [] このかっこに囲まれたオプションや引数は省略できます。このかっこが付いていない場合には、引数を必ず指定する必要があります。
- ... 省略符号。前の引数に変数を付けたり、引数を複数指定したりできることを意味します (例: `'filename...'`)。
- | 区切り文字 (セパレータ)。この文字で分割されている引数のうち1つだけを指定できます。
- { } この大かっこに囲まれた複数のオプションや引数は省略できます。かっこ内を1組として扱います。

プロトコル この項が使われているのは、プロトコルが記述されているファイルを示すサブセクション3Rだけです。パス名は常にボールド体 (**bold**) で示されています。

機能説明 コマンドの機能とその動作について説明します。実行時の詳細を説明していますが、オプションの説明や使用例はここでは示されていません。対話形式のコマンド、サブコマンド、リクエスト、マクロ、関数などに関しては「使用法」で説明します。

IOCTL セクション7だけに使用される項です。 `ioctl(2)` システムコールへのパラメータは `ioctl` と呼ばれ、適切なパラメータを持つデバイスクラスのマニュアルページだけに記載されています。特定のデバイスに関する `ioctl` は、(そのデバイスのマニュアルページに) アルファベット順に記述されています。デバイスの特定のク

	<p>ラスに関する <code>ioctl</code> は、<code>mtio(7I)</code> のように <code>io</code> で終わる名前が付いているデバイスクラスのマニュアルページに記載されています。</p>
オプション	<p>各オプションがどのように実行されるかを説明しています。「形式」で示されている順に記述されています。オプションの引数はこの項目で説明され、必要な場合はデフォルト値を示します。</p>
オペランド	<p>コマンドのオペランドを一覧表示し、各オペランドがコマンドの動作にどのように影響を及ぼすかを説明しています。</p>
出力	<p>コマンドによって生成される出力 (標準出力、標準エラー、または出力ファイル) を説明しています。</p>
戻り値	<p>値を返す関数の場合、その値を示し、値が返される時の条件を説明しています。関数が <code>0</code> や <code>-1</code> のような一定の値だけを返す場合は、値と説明の形で示され、その他の場合は各関数の戻り値について簡単に説明しています。void として宣言された関数はこの項では扱いません。</p>
エラー	<p>失敗の場合、ほとんどの関数はその理由を示すエラーコードを <code>errno</code> 変数の中に設定します。この項ではエラーコードをアルファベット順に記述し、各エラーの原因となる条件について説明します。同じエラーの原因となる条件が複数ある場合は、エラーコードの下にそれぞれの条件を別々のパラグラフで説明しています。</p>
使用法	<p>この項では、使用する際の手がかりとなる説明が示されています。特定の決まりや機能、詳しい説明の必要なコマンドなどが示されています。組み込み機能については、以下の小項目で説明しています。</p>
	<p>コマンド 修飾子 変数 式 入力文法</p>
使用例	<p>コマンドや関数の使用例または使用方法を説明しています。できるだけ実際に入力するコマンド行とスクリーンに表示される内容を例にしています。例の中には必ず <code>example%</code> のプロンプトが出てきます。スーパーユーザーの場合は <code>example#</code> のプロンプトになります。例では、その説明、変数置換の方法、戻り値が示され、それらのほとんどが「形式」、「機能説明」、「オプション」、「使用法」の項からの実例となっています。</p>
環境	<p>コマンドや関数が影響を与える環境変数を記述し、その影響について簡単に説明しています。</p>

終了ステータス	コマンドが呼び出しプログラムまたはシェルに返す値と、その状態を説明しています。通常、正常終了には0が返され、0以外の値はそれぞれのエラー状態を示します。
ファイル	マニュアルページが参照するファイル、関連ファイル、およびコマンドが作成または必要とするファイルを示し、各ファイルについて簡単に説明しています。
属性	属性タイプとその対応する値を定義することにより、コマンド、ユーティリティ、およびデバイスドライバの特性を一覧しています。詳細は <code>attributes(5)</code> を参照してください。
関連項目	関連するマニュアルページ、当社のマニュアル、および一般の出版物が示されています。
診断	エラーの発生状況と診断メッセージが示されています。メッセージはボールド体 (bold) で、変数はイタリック体 (<i>Italic</i>) または <日本語訳> で示されており、Cロケール時の表示形式です。
警告	作業に支障を与えるような現象について説明しています。診断メッセージではありません。
注意事項	それぞれの項に該当しない追加情報が示されています。マニュアルページの内容とは直接関係のない事柄も参照用に扱っています。ここでは重要な情報については説明していません。
使用上の留意点	すでに発見されているバグについて説明しています。可能な場合は対処法も示しています。

参照
序章

名前	Intro_jfp, intro_jfp - JFP 管理コマンドおよびアプリケーションプログラムの序章
使用条件	本セクションでは、各マニュアルページで説明するコマンドがどのパッケージに含まれているのかを記述します。各コマンドを使用するには、ここで記述しているパッケージがオペレーティングシステムにインストールされていなければなりません。パッケージの追加については、pkgadd(1m)を参照してください。
機能説明	本セクションでは、主にシステムの保守や管理に使用する JFP コマンドを、アルファベット順に説明します。
コマンドの構文	特に説明しないかぎり、本セクションで説明するコマンドは、以下の構文に従って、オプションやその他の引数を受け付けます。

name [*option*(s)] [*cmdarg*(s)]

name 実行可能ファイルの名前です。

option -*noargletter*(s) または -*argletter*<>*optarg*

<>は、空白(オプション)。

noargletter 引数が必要ないオプション 1 文字を表します。

argletter 引数が必要なオプション 1 文字を表します。

optarg *argletter* に必要な引数(文字列)です。

cmdarg パス名(または他のコマンドの引数)。-だけを指定すると標準入力を表します。

属性	このセクション中にリストされている属性については attributes(5) のマニュアルページを参照してください。
----	--

関連項目	getopt(1), getopt(3C), attributes(5)
------	--------------------------------------

診断	終了時、すべてのコマンドは、正常に終了すると 0 を返します。ゼロでない値を返した場合、間違った引数を指定した、不良で受け入れることができないデータを指定した、その他、現在はうまく処理できないなどの障害を示します。このような値は、「終了コード」、「終了ステータス」、「リターンコード」などさまざまな呼ばれ方をします。そして、特別な使い方がある場合に限って説明されます。
----	--

注意事項	すべてのコマンドにおいて標準の構文に準拠しているわけではありません。
------	------------------------------------

コマンド一覧	名前 説明
	Intro_jfp(1M) JFP 管理コマンドおよびアプリケーションプログラムの序章
	atok12mngtool(1m) ATOK12 ユーザー情報の管理。本リリースより提供されません。
	cssd(1M) CS の起動と監視を行うデーモン

<code>jserver(1M)</code>	かな漢字変換マルチクライアントサーバー
<code>wnnsysenv_server(1M)</code>	<code>jserver</code> 環境設定ユーティリティー
<code>dpkeyserv(1M)</code>	ライセンスサーバー
<code>dpkeystat(1M)</code>	ライセンスの使用状況の表示と制御
<code>jserver(1M)</code>	かな漢字変換サーバー
<code>wnnaccess(1M)</code>	かな漢字変換サーバー/辞書引きサーバーのアクセス制御
<code>wnnds(1M)</code>	Wnn6 辞書引きサーバー。本リリースから提供されません。
<code>wnnkill(1M)</code>	かな漢字変換サーバーの終了。本リリースから提供されません。
<code>wnnoffline(1M)</code>	Wnn6 オフライン学習。本リリースから提供されません。
<code>wnnudmerge(1M)</code>	Wnn6 登録語自動反映モジュール。本リリースから提供されません。

参照

システム管理コマンド

名前	atok12mngtool - ATOK12 ユーザー情報の管理
形式	atok12mngtool
機能説明	atok12mngtool コマンドは本リリースから提供されなくなりました。ATOK for Solaris ではユーザ辞書はユーザのホームにおかれるようになり管理ツール自体が不要になりました。

名前	cssd - CS の起動と監視を行うデーモン
形式	<code>/usr/sbin/cssd [-f filename]</code>
使用条件	SUNWjfpu
機能説明	cssd は MLE (複数言語環境) で提供される CS を起動したり、監視したりするためのコマンドです。各 CS を起動後、cssd は CS が終了すると (異常終了を含む) その CS を 5 秒後に再び起動します。
CS 起動情報ファイル	CS 起動情報ファイル <code>/etc/css.conf</code> は、CS 起動情報ディレクトリを記述します。このファイルはカスタマイズすることができます。cssd は起動時にこのファイルを読み、CS 起動情報ディレクトリを取得します。そして、それらの CS 起動情報ディレクトリに置かれているすべての実行ファイルを起動します。通常、CS 起動情報ディレクトリには CS の実体ではなく CS 起動スクリプトを置いて間接的に CS を起動します。
起動スクリプト	CS 起動スクリプトは、CS 起動情報ディレクトリに置かれます。cssd は、 <code>/etc/css.conf</code> の最初の CS 起動情報ディレクトリから順にすべての CS 起動スクリプトを探して実行します。同一のファイル名を持つ複数のスクリプトが存在する場合は、最初に見つかったスクリプトのみ実行されます。
起動情報の再取得	cssd はシグナル SIGHUP を受信すると、 <code>/etc/css.conf</code> を読み直してすべての CS 起動スクリプトを検索し、次に該当する CS 起動スクリプトを再起動、新規起動、または終了させます。 最終修正時刻が変更されている (再起動) 新しく増えた (新規起動) 削除された (終了)
終了方法	cssd はシグナル SIGTERM を受信すると、cssd の管理下にある各 CS に SIGTERM シグナルを送って自分自身は終了します (通常、このシグナルにより CS も終了します)。
エラー情報	cssd はデーモンの機能として、 <code>syslogd(1M)</code> に対して、レベル <code>err</code> でエラー情報を、また、レベル <code>notice</code> で起動・再起動などの情報を送ります。
オプション	<code>-f filename</code> CS 起動情報ファイルを指定します。このオプションを指定しない場合、 <code>/etc/css.conf</code> が用いられます。
ファイル	<code>/etc/css.conf</code> 省略時 CS 起動情報ファイル
関連項目	<code>css.conf(4)</code> , <code>syslogd(1M)</code>
使用上の留意点	CS 起動スクリプトにそれ自身のプロセスを CS で <code>exec</code> するように記述した場合、その CS が終了しても cssd は CS 起動スクリプトが終了したと認識し、その旨の <code>syslog</code> メッセージを出力します。

名前	dpkeyserv - ライセンスサーバー
形式	<code>/usr/lib/wnn/dpkeyserv [-a file] [-f file] [-l] [-L] [-t min] [-v] [-localhost]</code>
機能説明	<p>dpkeyserv は、かな漢字変換サーバー jserver の使用許諾権 (ライセンス) を供与します。ライセンス管理の形式 (アプリケーション名、最大供与ライセンス数、ライセンスパスワードの設定) は、<code>/etc/wnn/dp/dpkeylist</code> に登録します。</p> <p>通常、システム立ち上げ時に起動されますが、もし、マニュアルで立ち上げる必要のある場合は、以下のとおりです。</p> <pre>svcadm enable wnn8/server</pre>
オプション	<p>以下のオプションによって、動作を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <code>-a file</code> デフォルトの <code>dpkeyallow</code> の代わりに、<code>file</code> をアクセス制御リストとして読み込みます。 <code>-f file</code> デフォルトの <code>dpkeylist</code> の代わりに、<code>file</code> をソフトウェア許諾リストとして読み込みます。 <code>-l</code> dpkeyserv のログファイルを保存します。環境変数 <code>DPKEY_LOGFILE</code> が設定されていないければ、<code>/var/lib/wnn/dp/log</code> にログを出力します。 <code>-L</code> <code>-l</code> オプションと同様に、dpkeyserv のログファイルを保存します。<code>-l</code> オプションと比べて、通信パケットのダンプを追加保存します。 <code>-t min</code> アプリケーションが未使用のまま指定した時間を経過すると、そのライセンスを強制開放します。時間指定は「分」単位で行います。dpkeylist の「未使用のタイマー」と同じ機能ですが、<code>-t</code> では管理する全ソフトウェアに対して有効となります。 <code>-v</code> バージョン情報を表示します。 <code>-localhost</code> localhost からの接続のみを受け付けます。
ファイル	<p><code>dpkeylist</code> 使用許諾情報ファイル (ライセンス)</p> <p><code>dpkeyallow</code> アクセス制御ファイル</p>
属性	次の属性については <code>attributes(5)</code> のマニュアルページを参照してください。

属性タイプ	属性値
使用条件	SUNWjwmsu

関連項目 [dpkeystat\(1M\)](#)

名前	dpkeystat - ライセンスサーバー管理コマンド
形式	<code>/usr/lib/wnn/dpkeystat [-D host] [-h host] [-a application] [-u user] [-i interval] [[-y] number] [-v]</code>
機能説明	dpkeystat は、ライセンスを取得しているクライアントの表示とライセンスの開放を行います。
オプション	以下のオプションにより動作を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> -D <i>host</i> dpkeyserv が起動しているホスト名を指定します。省略時には、localhost または、サーバーアクセスリスト /etc/wnn/dp/dpkeyservlist に登録されているホストが適用されます。 -h <i>host</i> 指定されたホストで起動しているクライアント情報のみ表示します。 -a <i>application</i> 指定されたアプリケーション情報のみを表示します。 -u <i>user</i> 指定されたユーザー情報のみを表示します。 -i <i>interval</i> 情報表示を <i>interval</i> ごとに繰り返します。「秒」単位で指定します。Ctrl+Cなどで強制終了させるまで無限に繰り返します。 [-y] <i>number</i> 現在使用されているライセンスを開放します。<i>number</i> には、開放するライセンス番号を指定します。-y オプションを使用すると、確認を行わずにライセンス開放します。実行には root 権限が必要となります。 -v バージョン情報を表示します。
ファイル	dpkeyservlist サーバーアクセスファイル
属性	次の属性については attributes(5) のマニュアルページを参照してください。

属性タイプ	属性値
使用条件	SUNWjwnsu

関連項目 [dpkeyserv\(1M\)](#)

名前	jserver - かな漢字変換マルチクライアントサーバー
形式	<code>/usr/lib/wnn/jserver [-f file] [-s file] [-h file] [-A file] [-N no] [-pno portNo] [-L hostname] [-S loglevel] [-v] [-localhost]</code>
機能説明	<p>jserver は、日本語入力における仮名漢字変換を、複数のユーザーに提供します。通常システム立ち上げ時に起動されます。jserver の起動には root 権限が必要になります。jserver は、起動時に <code>/usr/lib/wnn/ja_JP/jserverrc</code> に設定された辞書を読み込みます。jserver は、全ユーザーの頻度、登録可能辞書を一括して管理します。それらの管理のためのディレクトリは <code>jserverrc</code> 中の <code>jserver_dir</code> というエントリで指定されています。通常、システム立ち上げ時に起動されますが、もし、マニュアルで立ち上げる必要がある場合は、以下のとおりです。</p> <pre>svcadm enable wnn8/server</pre>
オプション	<p>以下のオプションによって、動作を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> -f <i>file</i> デフォルトの <code>jserverrc</code> の代わりに、<i>file</i> を初期化ファイルとして読み込みます。 -s <i>file</i> jserver のログファイルを保存します。<i>file</i> に「-」を指定した時は、標準エラー出力に出力されます。 -h <i>file</i> デフォルトの <code>hinsi.data</code> の代わりに、<i>file</i> を品詞データファイルとして読み込みます。 -A <i>file</i> jserver のアクセス許可ファイルとして <i>file</i> を読み込みます。 -N <i>no</i> デフォルトのポート番号 (22273) に <i>no</i> を加えた値を <code>inet domain</code> の <code>socket</code> で接続を行なう場合の <code>tcp</code> のポート番号として使用します。 -pno <i>port_no</i> デフォルトのポート番号の代わりに、<i>portNO</i> を <code>inet domain</code> の <code>socket</code> で接続を行なう場合の <code>tcp</code> のポート番号として使用します。 -L <i>hostname</i> ライセンスサーバー名を指定します。<i>hostname</i> には、ライセンスサーバーが起動しているホスト名が入ります。当オプション省略時には、「<code>dpkeyservlist</code> での指定」、「<code>localhost</code>」の順でライセンスサーバーを検索します。 -S <i>loglevel</i> ログレベルを指定し、<code>syslog</code> ファイルにログを保存します。 -v バージョン情報を表示します。 -localhost <code>localhost</code> からの接続のみを受け付けます。
ファイル	<code>/tmp/jd_sockV8</code> UNIX ドメインソケット
属性	次の属性については <code>attributes(5)</code> のマニュアルページを参照してください。

属性タイプ	属性値
使用条件	SUNWjwmsu

関連項目

jserverrc(4)

名前	wnnaccess - サーバーのアクセスコントロールの設定、情報取得
形式	<code>/usr/sbin/wnnaccess [-D jserver_name jserver_name:No jserver_name/No] [-L LANG_name] [-] + [hostname username] [-v]</code>
機能説明	wnnaccess は、サーバーに対するアクセス許可情報に対して、ホスト/ユーザーの追加/削除、現在の情報の取得、および、アクセスコントロールのオン/オフを行います。
オプション	以下のオプションによって、動作を指定します。

`-D jserver_name | jserver_name:No | jserver_name/No`

接続する変換サーバーが稼働するホスト名を「`jserver_name`」で、ポートを「`No`」で指定します。`:No`と指定すると相対ポート番号となり、`jserver`の標準ポート番号(22273)に`No`を加えた値をポート番号とします。例えば`:1`とした場合は22274が使用されます。`/No`と指定すると絶対ポート番号となり、`No`の値をそのままポート番号として使用します。それぞれ省略時は`localhost`の標準ポート(22273)が適用されます。

`-L LANG_name`

`LANG_name`で指定した言語に対応する変換サーバーに接続します。`LANG_name`省略時は、環境変数`LANG`が参照されます。

`-v`

バージョン情報を表示します。

上記引数以外のオプションを指定せずに実行した場合、`wnnaccess`は現在のアクセスコントロールの情報を表示します。表示のフォーマットは、先頭行は、現在アクセスコントロールがオンかオフを表します。次行以降は、アクセス許可が与えられているホストとユーザーであり、そのフォーマットは以下のいずれかになります。

<code>host-name</code>	このホストからは全ユーザーアクセス可能です。
<code>host-name:</code>	このホストからは全ユーザーアクセス不可能です。
<code>host-name:user-name,user-name,...</code>	このホストからは表示されたユーザーのみアクセス可能です。
<code>@user-name</code>	このユーザーはすべてのホストからアクセス可能です。

引数が、「`-D`」、「`-L`」、「`-v`」オプション以外に「`-`」オプションだけの場合は、アクセスコントロールのオンを行ない、「`+`」オプションだけの場合は、アクセスコントロールのオフを行います。アクセスコントロールがオフの状態では、サーバーへの接続は制限されません。

「+」オプションと「ホスト名/ユーザー名」が指定された場合は、そのホスト/ユーザーをアクセスコントロールに追加し、「-」オプションと「ホスト名/ユーザー名」が指定された場合は、そのホスト/ユーザーをアクセスコントロールから削除します。「ホスト名/ユーザー名」のフォーマットは、現在のアクセスコントロールの情報の表示と同じです。「-」、「+」オプションいずれも省略された場合は、デフォルトとして「+」オプションをつけた場合と同じ動きをします。

属性

次の属性については `attributes(5)` のマニュアルページを参照してください。

属性タイプ	属性値
使用条件	SUNWjwnsu

関連項目

[jserver\(1M\)](#)

名前 wnnds - Wnn6 辞書引きサーバー
形式 /**usr/lib/locale/ja/wnn/wnnds** [-s *file*] [-A *file*] [-N *no*] [-pno *port_no*]
機能説明 wnnds コマンドは本リリースから提供されなくなりました。

名前	wnnkill - Wnn6 かな漢字変換サーバーの終了
形式	/usr/sbin/wnnkill
機能説明	wnnkill コマンドは本リリースから提供されなくなりました。smf(5)の機能 "svcadm disable wnn8/server" を利用して Wnn8 かな漢字変換サーバーを終了できます。

名前 wnnoffline - Wnn6 オフライン学習
形式 /**usr/lib/locale/ja/wnn/wnnoffline** [-r *file*] [-l *file*]
機能説明 wnnoffline コマンドは本リリースから提供されなくなりました。

名前	wnnsysenv_server - jserver 環境設定ユーティリティー
形式	<code>/usr/sbin/wnnsysenv_server [-v]</code>
機能説明	wnnsysenv_server は、Wnn8 における jserver の環境設定を行います。設定した内容は、 <code>/etc/wnn</code> 以下のファイルに保存されます。wnnsysenv_server の起動には root 権限が必要です。
オプション	以下のオプションにより動作を指定します。 -v バージョン情報を表示します。
属性	次の属性については attributes(5) のマニュアルページを参照してください。

属性タイプ	属性値
使用条件	SUNWjwnsu

名前 wnnudmerge - Wnn6 登録語自動反映モジュール
形式 /**usr/lib/locale/ja/wnn/wnnudmerge** [-n] [-f *file*] [-j *file*]
機能説明 wnnudmerge コマンドは本リリースから提供されなくなりました。